

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここいろスペース		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 10日		～ 2026年 3月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数) 7人
○従業者評価実施期間	2026年 3月 10日		～ 2026年 3月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの特性に寄り添った専門的支援	保護者評価で「こどものことを十分に理解し、特性に応じた支援が得られている」との回答が100%であり、職員の共感的・専門的な関わりが評価されている。	5領域との関連性をさらに明確にした支援プログラムを運用し、個々の「放課後等デイサービス計画」への反映とフィードバックの質を一層高めていく。
2	地域資源を最大限に活用した活動展開	室内スペースの制約をカバーするため、地域の体育館や公園、ホール等を積極的に活用し、子どもたちがのびのびと体を動かせる機会を確保している。	湯沢町の豊かな自然や地域行事との連携をさらに深め、社会性や多様な経験を育む「ここいろスペース」ならではの体験型プログラムを拡充する。
3	保護者との信頼関係と情報共有	日々の活動報告や面談を通じ、子どもの健康や発達状況について高い共通理解を得られている。Webシステムによる可視化も定着している。	LINEリッチメニューの活用などにより、重要事項やマニュアル類へいつでもアクセスできる環境を整え、安心感をさらに醸成する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設内環境の構造化とスペースの最適化	利用児童が多い日のスペース確保や、それぞれに合わせた視覚的な構造化(環境設定)について、職員・保護者双方から改善の余地があるとの指摘がある。	1日の利用人数の調整や動線の見直し、パーティションの活用等による「個のスペース」の確保を検討する。また、整理整頓と清掃を徹底し、より心地よい環境を整える。
2	保護者同士の交流機会の提供	送迎支援が中心であるため対面機会が少なく、保護者同士のつながりや情報交換の場が十分に提供できていない(自己評価でも課題と認識)。	無理のない範囲で参加できる茶話会や、SNS等を活用したコミュニティ運営、きょうだい支援を含めたイベントを企画し、孤立感の解消を図る。
3	家族支援プログラム(ペアトレ等)の周知と実施	家族支援の重要性は認識されているが、プログラムの存在や具体的な内容についての周知が一部の保護者に留まっている。	湯沢町委託事業等の案内をより分かりやすく発信するとともに、事業所独自でもミニ勉強会や相談会を定例化し、家族全体のウェルビーイングを支える。